

「野方小学校の荒佐野棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

大崎町立野方小学校

2 学年・人数

4年生から6年生（計36人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年7月10日（土） 運動会での発表の練習（野方小学校体育館）

令和3年7月19日（月） 運動会での発表の練習（野方小学校体育館）

令和3年10月20日（水） 「のがたっ子フェスタ」〔学習発表会〕での発表に向けた練習（野方小学校体育館）

令和3年11月4日（木） 「のがたっ子フェスタ」〔学習発表会〕での発表に向けた練習（野方小学校体育館及び校庭）

令和3年11月11日（木） 衣装合わせ・リハーサル（野方小体育館及び校庭）

(2) 発表の日時・場所

令和3年9月26日（日） 秋季大運動会 ※今年度、発表を中止

令和3年10月2日（土） 野方ふれあいふるさと祭り ※祭りが中止

令和3年11月13日（土） のがたっ子フェスタ〔学習発表会〕

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

荒佐野棒踊り（あらさのぼうおどり）

(2) 由来

約336年前に摂津・河内・和泉の三国（現在の大阪地方）から荒佐野の地へ移住した人々の子孫から伝えられた。由来については、「農耕儀礼」、「朝鮮出兵の凱旋祝賀」、「防御・攻撃術の踊り化」など諸説あるが、一般的には五穀豊穡や無病息災を祈って踊られることから、荒佐野を開墾した人々も新天地での安泰を祈願して踊るようになったと思われる。

(3) 構成等

6尺棒（木製薙刀）を持った踊り手と3尺棒（木製刀）を持った踊り手の総勢24人が、縦2列に並び、前後4人1組で歌い手の歌う調子に合せながら、威勢のいい掛け声とともに棒を打ち合わせ勇壮に踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

ここ数年、児童数減少により、全校で行う行事にその影響が出てきた。特に、運動会は、児童は少なくなったのに出場する種目が多く、休む暇がないなどの課題が多く見られた。

そこで、学校としては「秋季大運動会」を盛大に開催できるように、棒踊り保存会や地域（野方公民分館）との連携・協力を推し進め、平成25年度から4～6年生の運動会表現種目に「棒踊り」を取り入れた。次に、平成26年度から野方公民分館との合同運動会と称して、校区民が出場する地域種目を設け、

運動会を盛り上げる工夫を行ってきた。棒踊りも準備から運動会本番まで保存会との連携を図り、充実してきている。また、運動会の数日後に行われる「野方ふるさと祭り」でも披露するなど活動の幅も近年広げてきている。しかし、今年度は、運動会での発表を予定し、練習を始めたものの、新型コロナウイルスが8月に急激に拡大し、運動会での実施は断念した。野方ふれあいふるさと祭りも祭り自体が中止になり、発表をする場がなくなった。そのため、11月に予定していた「のがたっ子フェスタ」での発表を目指し、保存会と連携し、無事に披露することができた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

連携・協力の『体制』をしっかりとさせるために、窓口を明確にしている。保存会側は、代表が窓口になり、保存会の会員の協力を取り付けるようにしている。学校側は、全体的には教頭が窓口になっているが、児童の練習計画や指導内容等、詳細の打合せは、体育主任や4～6年生の担任が行い、児童が効果的・効率的に棒踊りを学習・練習できるように進めている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



保存会の方の指導による練習風景



のがたっ子フェスタで踊る子供たち

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年生児童】

4年生のときは、6年生に教えてもらったけど、6年生になり、教える側としてがんばることができました。

【保護者】

小学生に棒踊りを教えて5年目になる。運動会での発表は今年も叶わなかったが、違う形で発表ができ、ホッとしている。我が子とこの棒踊りを踊れることを楽しみに、これからも一生懸命教えていきたい。

【教職員】

本校の棒踊りも9年が経ち、運動会を代表する種目としてすっかり定着している。しかし、昨年度と同様に運動会での発表は叶わなかった。6年生の踊る姿を見て、4年生・5年生が覚えていくという形を継承するためにも、何とか実施でき、安堵している。

【保存会から】

継承者が年々少なくなっているが、教えている子供たちの中から大人になり継承してくれれば、ありがたい。